

2022年度まちづくりネットモニター第11回調査結果 テーマ「成年後見制度について」



認知症や知的障がいなどにより、判断能力が不十分な方が不利益や被害を受けることがないよう、その方の権利を守る援助者（「成年後見人」など）を選定し、法的に支援する「成年後見制度」という制度があります。

本市では成年後見制度の総合相談窓口として、2022年4月に「郡山市成年後見支援センター」を設置し、制度の利用促進に取り組んでいます。

成年後見制度について市民の皆さまの認知度・関心度を把握するとともに、今後の取組みの参考とするためアンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(地域包括ケア推進課)

【調査概要】

- 調査期間 2022年10月21日(金)～10月30日(日) 10日間
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を返信
- モニター数 360名 (男性 178名 女性 182名)
- 回答者数 314名 (男性 156名 女性 158名)
- 回答率 87.2%



郡山市ウェブサイト
成年後見制度について

【分析】

《回答者内訳》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	0	5	10	32	41	22	34	12	156
女性	2	10	30	45	46	23	2	0	158
合計	2	15	40	77	87	45	36	12	314

《問1 成年後見制度の認知度》

49.4%が「知っている」、36.6%が「聞いたことはある」、14.0%が「全く知らない」と回答。制度について、約半数が「知っている」との結果であった。

年代別では、「知っている」との回答は、50代が最も多く63.2%、次いで60代が60.0%であった。

《問4 「郡山市成年後見支援センター」を知っていますか？》

9.2%が「知っている」、18.5%が「聞いたことはある」、72.3%が「知らない」と回答。成年後見支援センターについて知っている方は、27.7%であった。

問5の「知ったきっかけ」によると、知っている方のうち45.8%の方が、市の広報紙・ウェブサイトと回答した。

《問9 あなた自身の判断能力が不十分になった際に、成年後見制度を利用したいですか？》

34.7%が「利用したい」、13.7%が「利用したくない」、51.6%が「わからない」と回答。

問11の回答結果でも、半数以上の方が、「成年後見制度の内容や利用方法がわからない。」と回答している。

【考察】

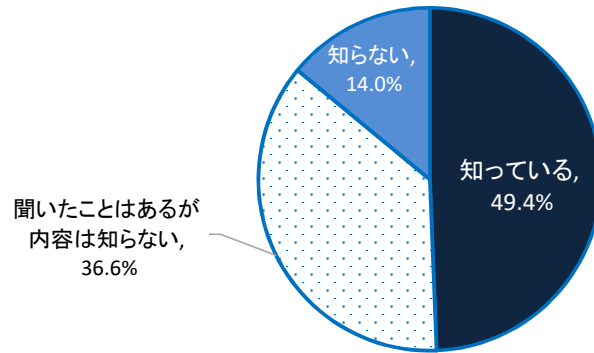
- ・成年後見制度は、49.4%が「知っている」、36.6%が「聞いたことはある」との回答から、認知度は高いと考えられる。
年代別では、50代、60代の方の認知度が高く、高齢者の親を持つ世代で広く浸透していると思われる。
- ・郡山市成年後見支援センターについては、「知っている」が9.2%となっており、まだまだ周知がなされていない。継続して周知を図っていく必要がある。
- ・判断能力が不十分な状況になったと想定したときに不安に感じると思うことは、「日常的な金銭管理」や「不動産などの財産管理」との回答が多く、身近な事柄に対し不安を感じやすいと考えられる。
- ・成年後見制度の利用については、40代以下の世代で50%以上が「わからない」と回答。成年後見制度と接する機会が少ないと思われる世代においては、制度利用になじみがなく判断しづらいためと考えられる。

※割合(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

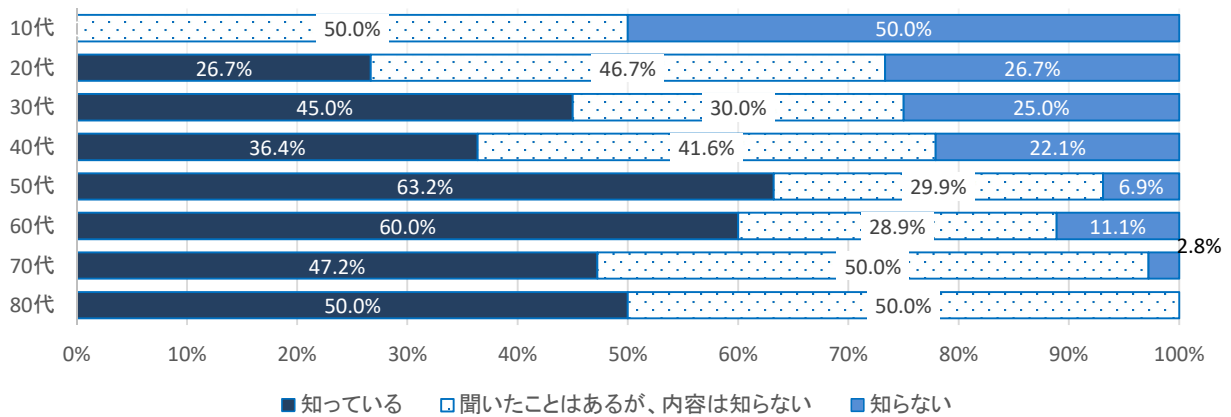
第1章 成年後見制度の認知度について

問1 成年後見制度を知っていますか？（1つ選択）

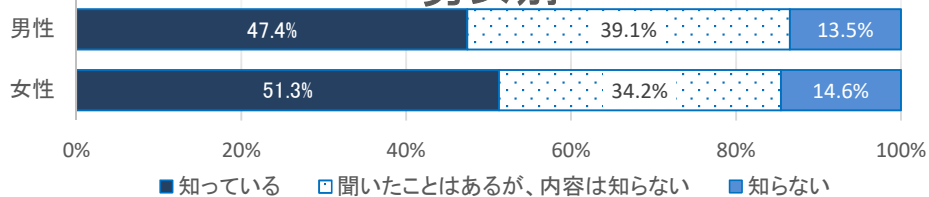
（回答者：314人）



年代別



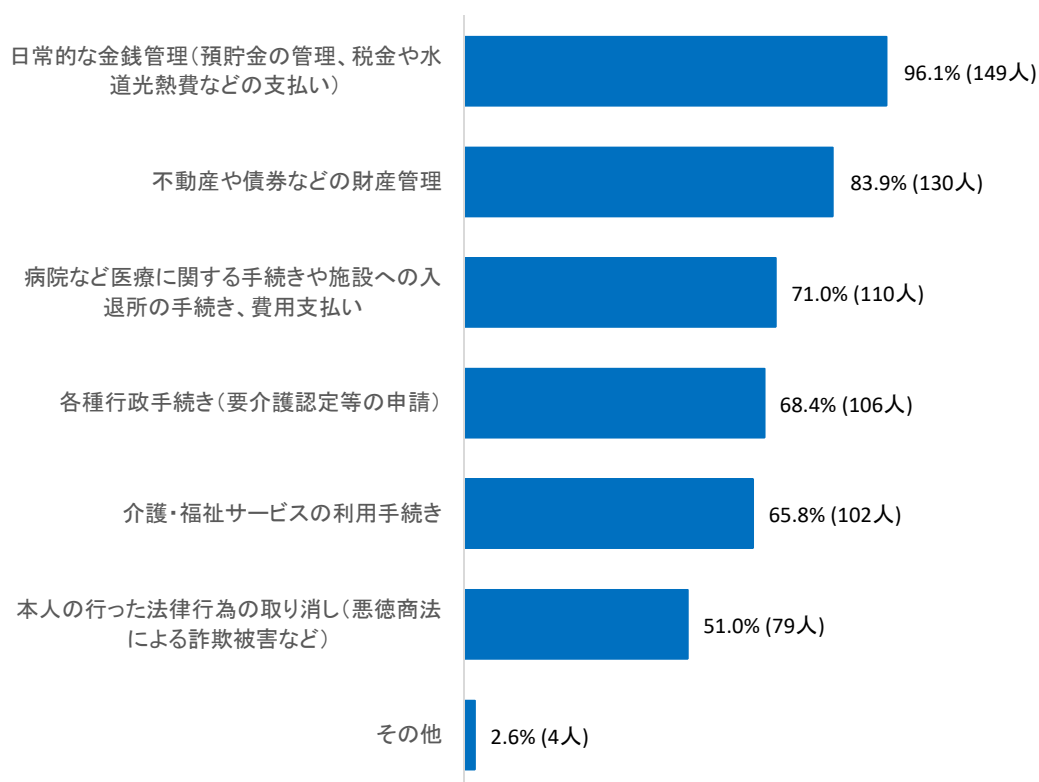
男女別



成年後見制度の認知度について、「知っている」と答えた割合は全体の49.4%であり、「聞いたことはあるが内容は知らない」が36.6%、「知らない」が14.0%であった。
年代別では、50代の認知度が63.2%と最も高い。
男女別では、男性より女性の認知度が3.9ポイント高い。

問2 成年後見制度の支援内容で知っていることはどれですか？
(複数選択)

(回答者：155人)



※「その他」を選択された方の主な意見

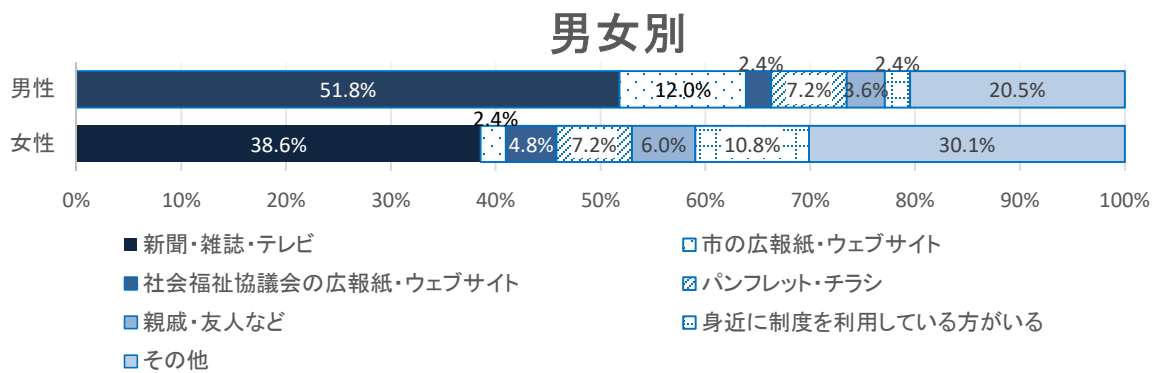
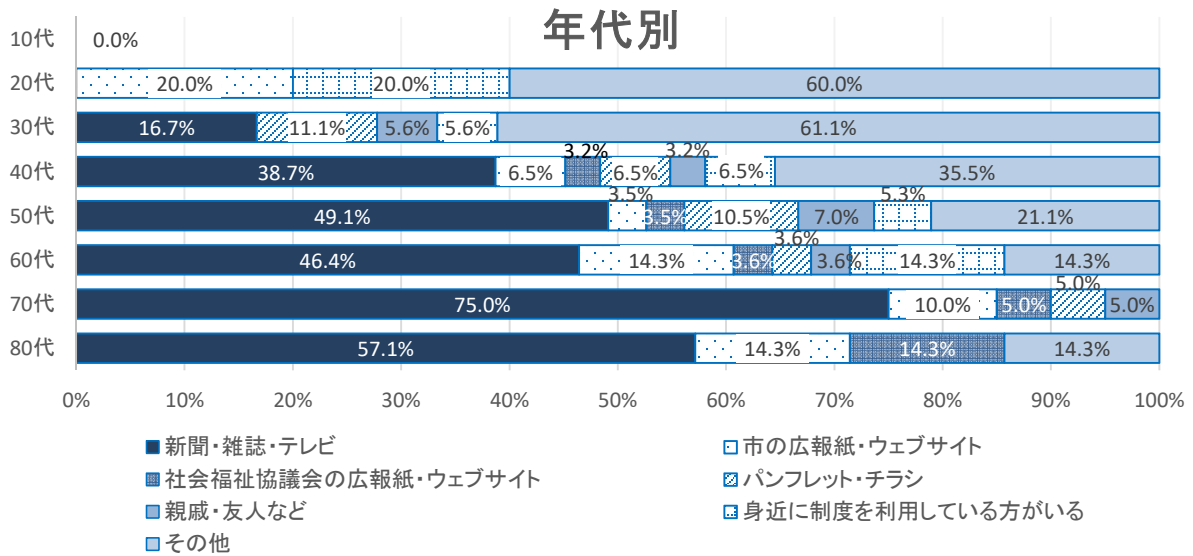
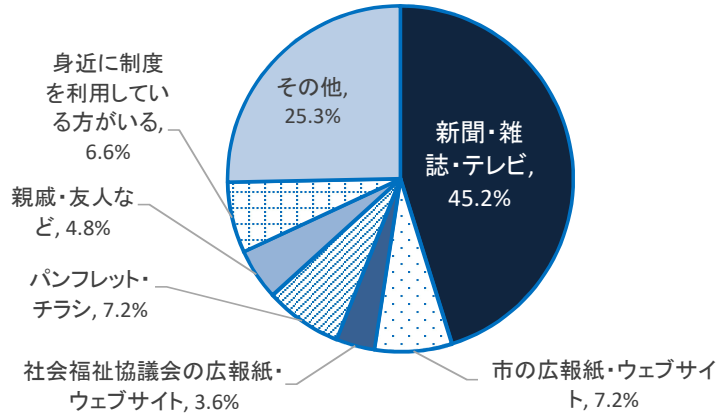
- ・ 信頼関係づくりと身上監護、意思決定支援。

成年後見制度の支援内容については、「日常的な金銭管理」が最も高く96.1%、次いで「不動産や債権などの財産管理」が83.9%、「病院など医療に関する手続きなど」が71.0%となっている。

一方で、「本人の行った法律行為の取り消し」は、最も低く51.0%であった。

問3 成年後見制度を知ったきっかけは何ですか？（1つ選択）

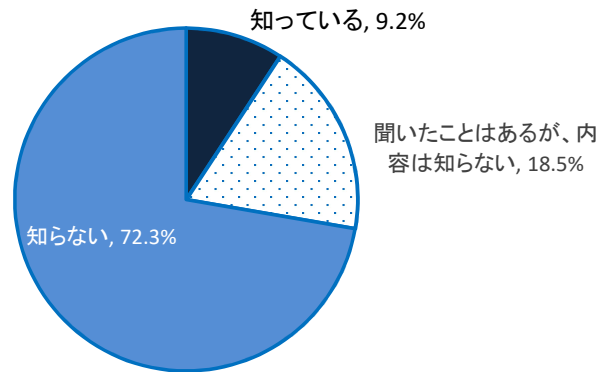
（回答者：166人）



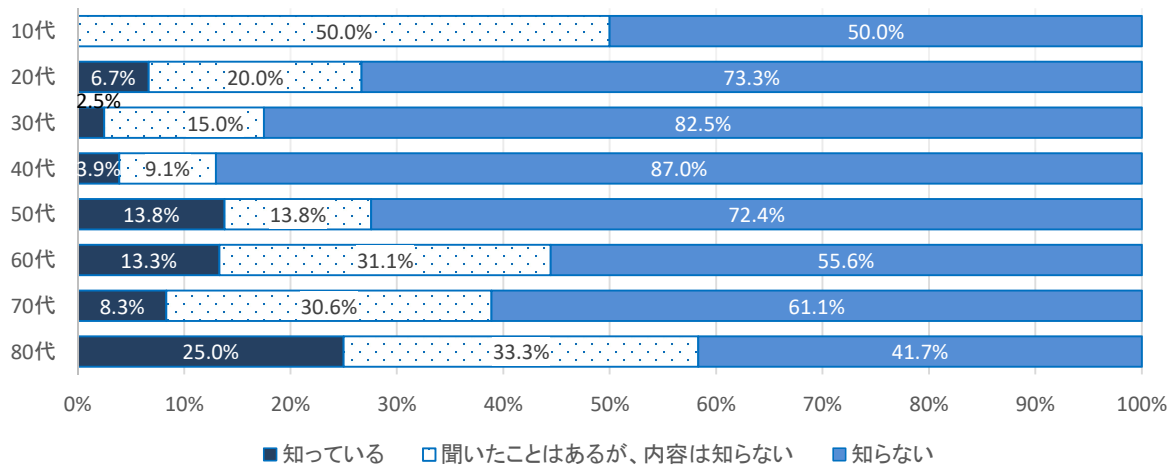
制度を知ったきっかけは、「新聞・雑誌・テレビ」が全体の45.2%と最も高い。「その他」を選択した方の理由では、「仕事の関係で知った」との回答が多くみられた。年代別では、40代以上は「新聞・雑誌・テレビ」の回答が多く、70代では75.0%となった。

問4 「郡山市成年後見支援センター（郡山市社会福祉協議会内）」を知っていますか？
（1つ選択）

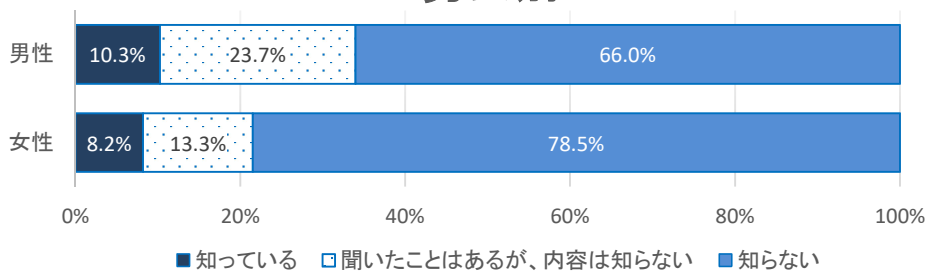
（回答者：314人）



年代別



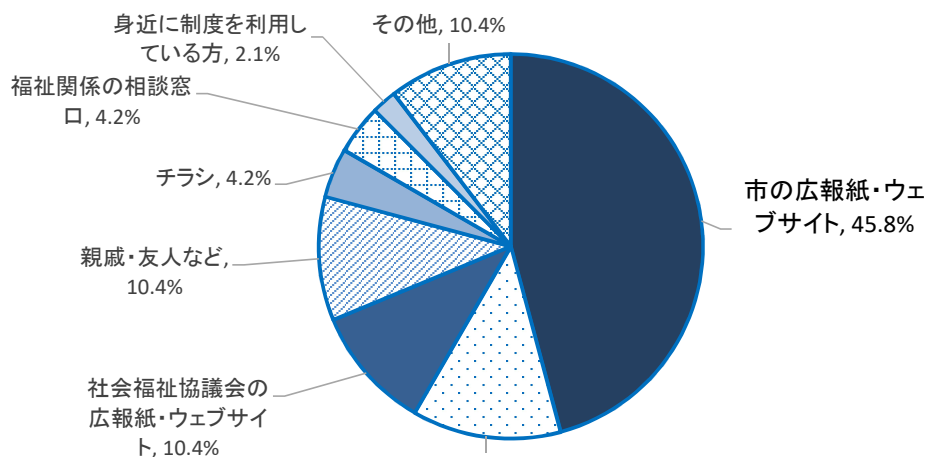
男女別



郡山市成年後見支援センターについて、「知らない」72.3%が最も高く、認知度はまだまだ低い状況である。
年代別では、「知っている」と回答した方が最も多かったのは80代で、25.0%であった。次いで50代が13.8%、60代が13.3%となっており、認知症患者数の割合が高い年代と、その年代を親に持つ子の年代で比較的認知度が高い傾向にあると思われる。

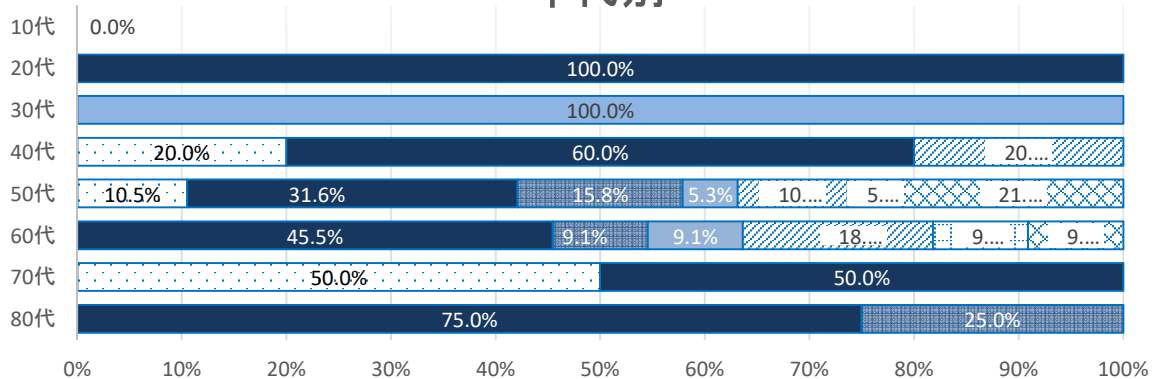
問5 郡山市成年後見支援センターを知ったきっかけは何ですか？（1つ選択）

（回答者：48人）



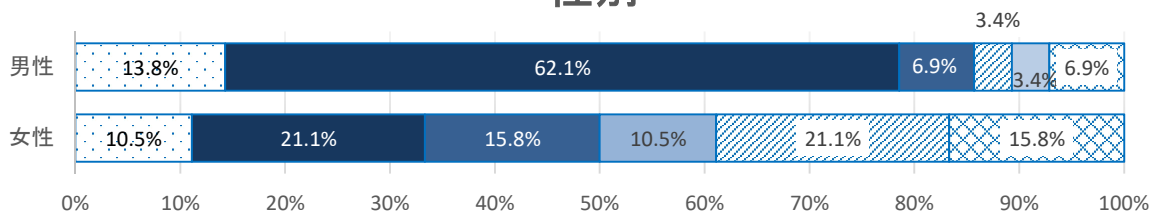
新聞・雑誌・テレビ、...

年代別



- 新聞・雑誌・テレビ
- 市の広報紙・ウェブサイト
- 社会福祉協議会の広報紙・ウェブサイト
- チラシ
- 親戚・友人など
- 身近に制度を利用している方
- 福祉関係の相談窓口
- その他

性別



- 新聞・雑誌・テレビ
- 市の広報紙・ウェブサイト
- 社会福祉協議会の広報紙・ウェブサイト
- チラシ
- 親戚・友人など
- 身近に制度を利用している方
- その他

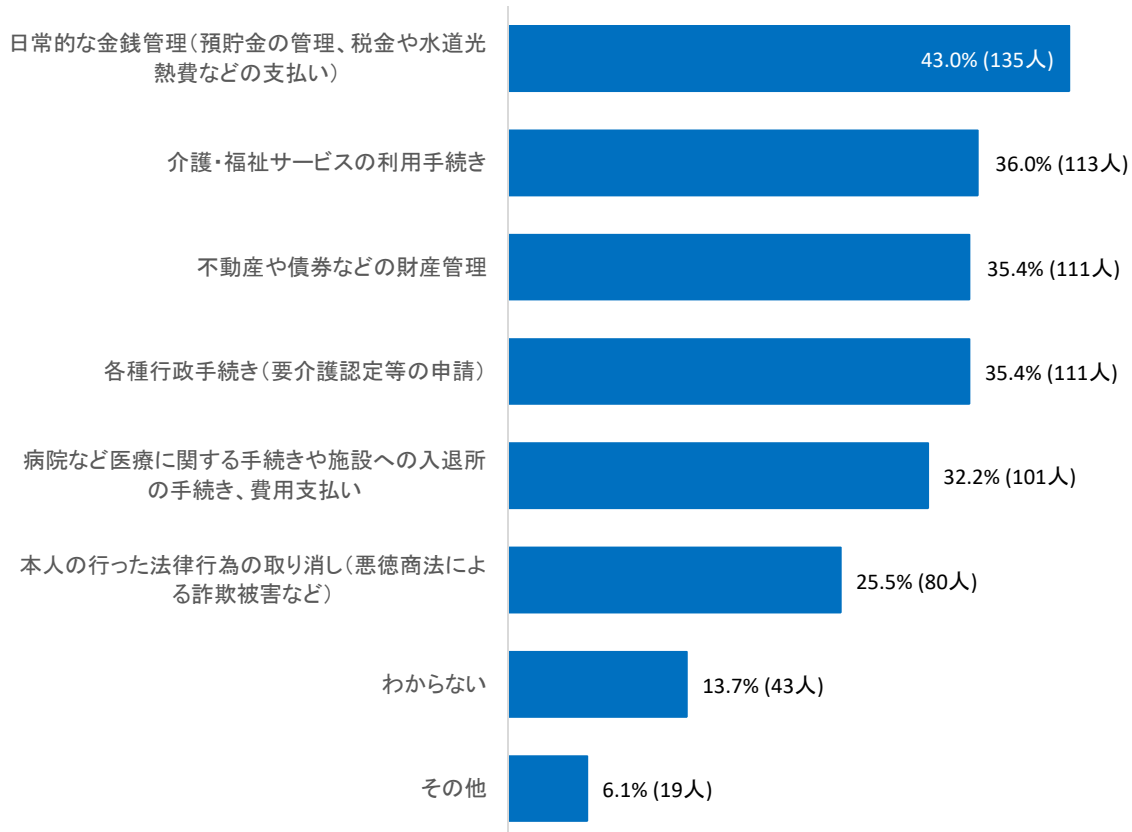
成年後見支援センターを知ったきっかけは、「市の広報紙・ウェブサイト」が最も高く45.8%であった。次いで、「新聞・雑誌・テレビ」が12.5%となっている。広報こおりやま7月号にて、成年後見制度の特集記事を掲載した効果と思われる。

第2章 成年後見制度の利用について

問6 日常生活の中で不安に感じると思うことを次のうちから選んでください。

(3つまで選択可)

(回答者：314人)



※「その他」を選択された方の主な意見

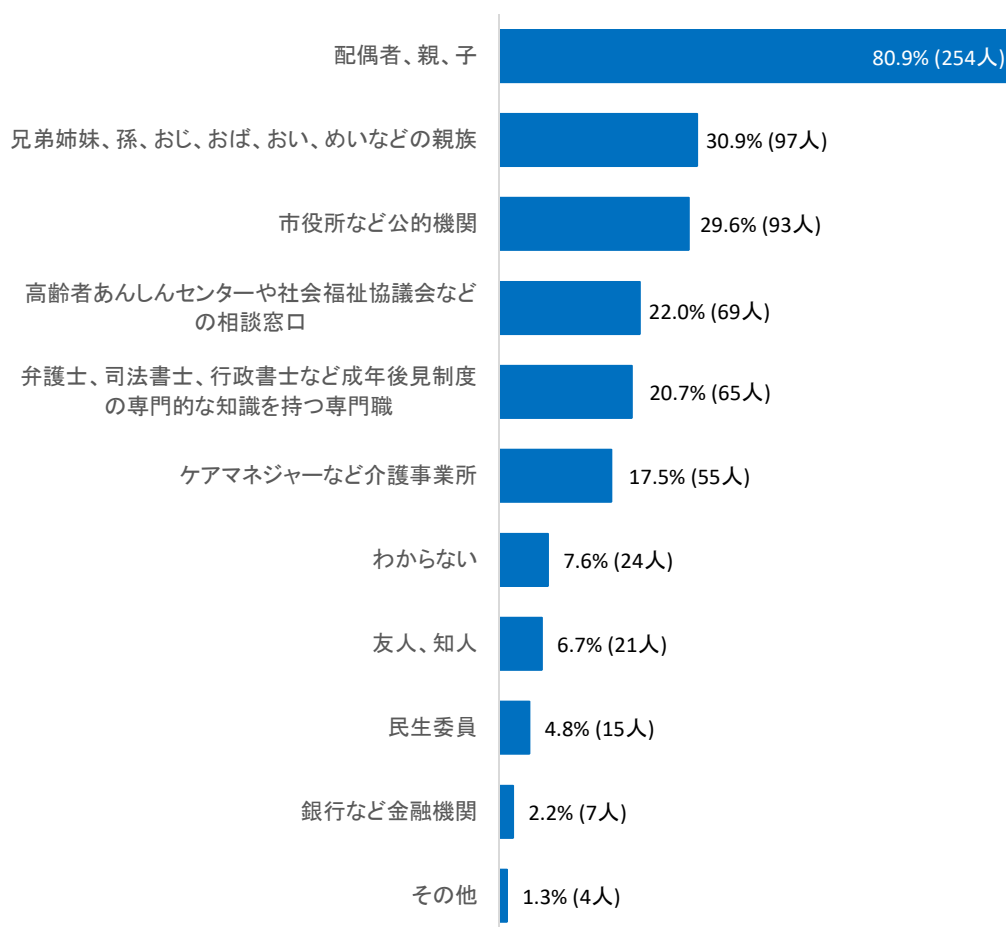
- ・ 現状では特にはない。不安に感じることはない。
- ・ 将来のことはわからない。

自分の判断能力が不十分な状況になったと想定し、日常生活の中で不安に感じると思うことは、「日常的な金銭管理」43.0%が最も高く、次いで「介護・福祉サービスの利用手続き」36.0%、「不動産や債券などの金銭管理」35.4%となっている。

判断能力が不十分な状況になったと想定すると、身近な事柄の「金銭管理や財産管理」に不安を感じるという回答が多くなったと考えられる。

問7 将来あなたの判断能力が不十分になったときに備え、相談したい方（機関）はどちらですか？（3つまで選択可）

（回答者：314人）



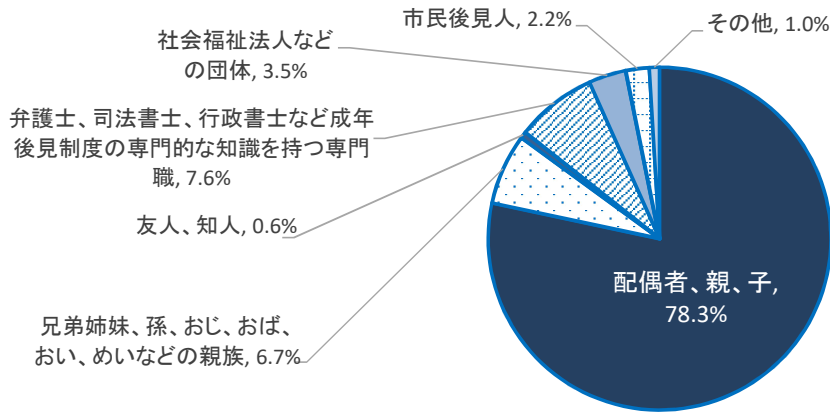
※「その他」を選択された方の主な意見

- ・ 認知症関連団体や障がい者関連団体等の当事者団体。

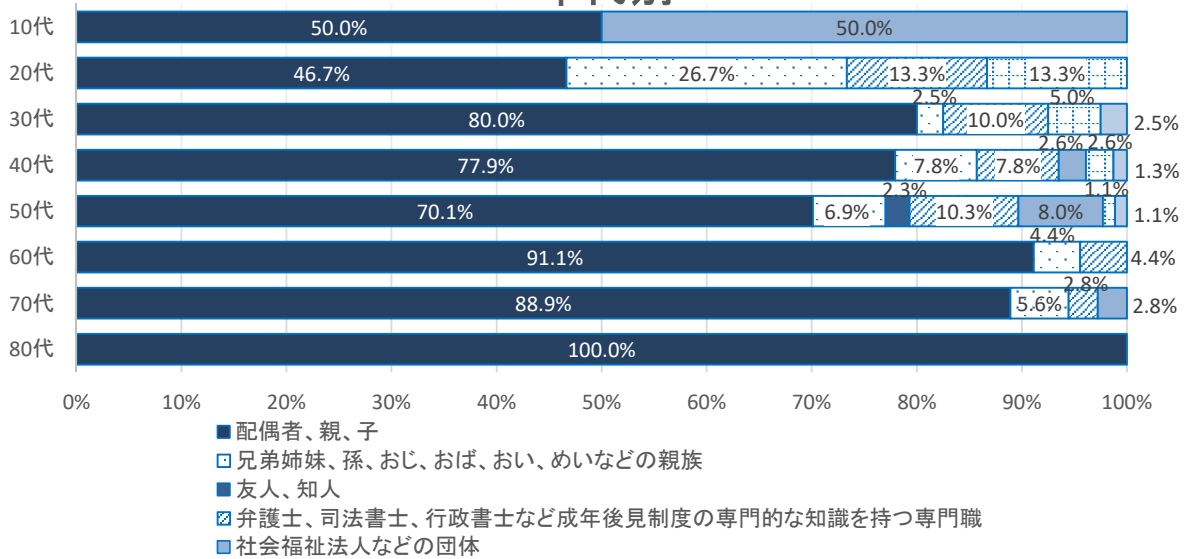
判断能力が不十分になったときに備え、相談したい方（機関）は、「配偶者、親、子」80.9%が最も高く、次いで「兄弟姉妹、孫、おじ、おば、おい、めいなどの親族」30.9%、「市役所などの公的機関」29.6%となっている。

身近な親族に相談したいと考える方が多いことが分かる。

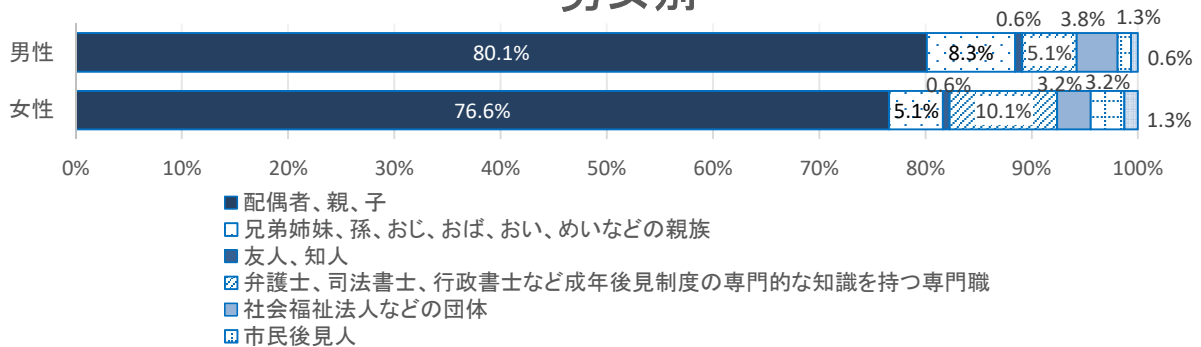
問8 あなたの判断能力が不十分となり、成年後見制度を利用するとなった場合、誰を後見人としていたいですか？（1つ選択） （回答者：314人）



年代別



男女別



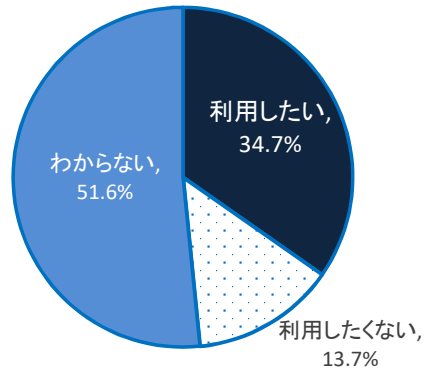
成年後見制度を利用する場合に後見人としていた方は、「配偶者、親、子」78.3%が最も高く、次いで、「弁護士、司法書士、行政書士、社会福祉士、社会保険労務士など成年後見制度の専門的な知識を持つ専門職」7.6%、「兄弟姉妹、孫、おじ、おば、おい、めいなどの親族」6.7%となっている。

年代別でみると、30代から80代の7割以上が「配偶者、親、子」と回答した。

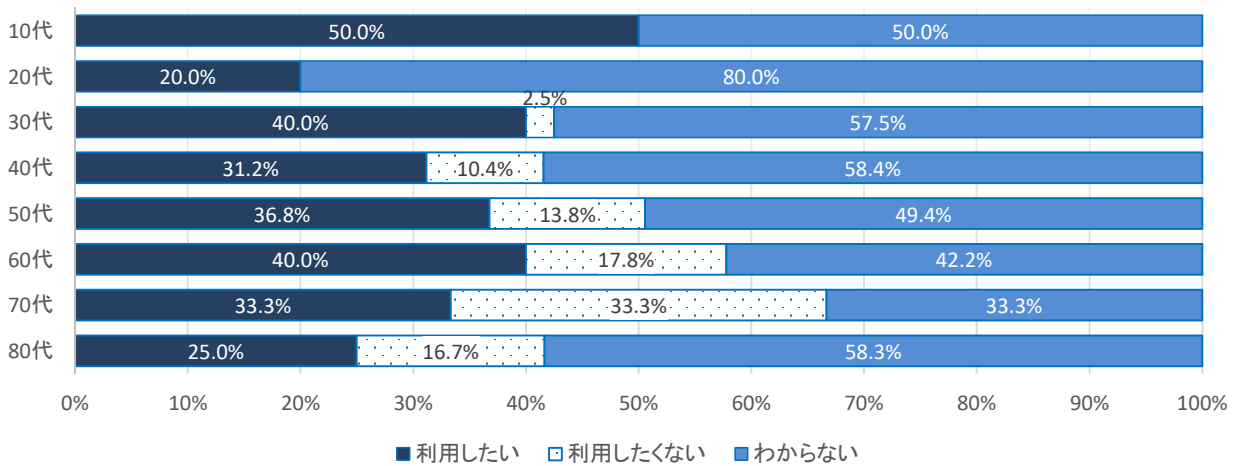
男女別でみると、「弁護士、司法書士、行政書士、社会福祉士、社会保険労務士など成年後見制度の専門的な知識を持つ専門職」の割合は女性が5.0ポイント高くなっている。

問9 あなた自身の判断能力が不十分になった際に、成年後見制度を利用したいですか？（1つ選択）

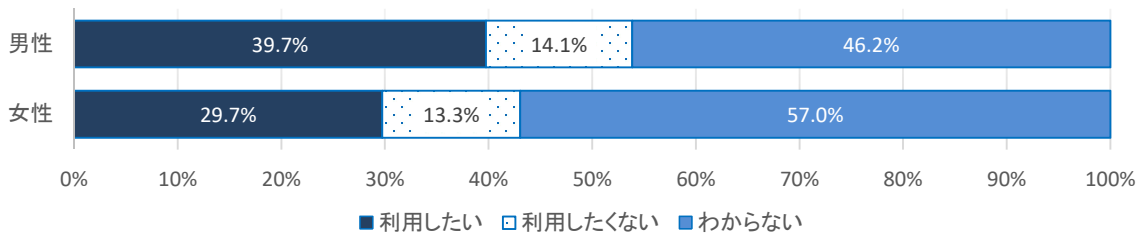
（回答者：314人）



年代別



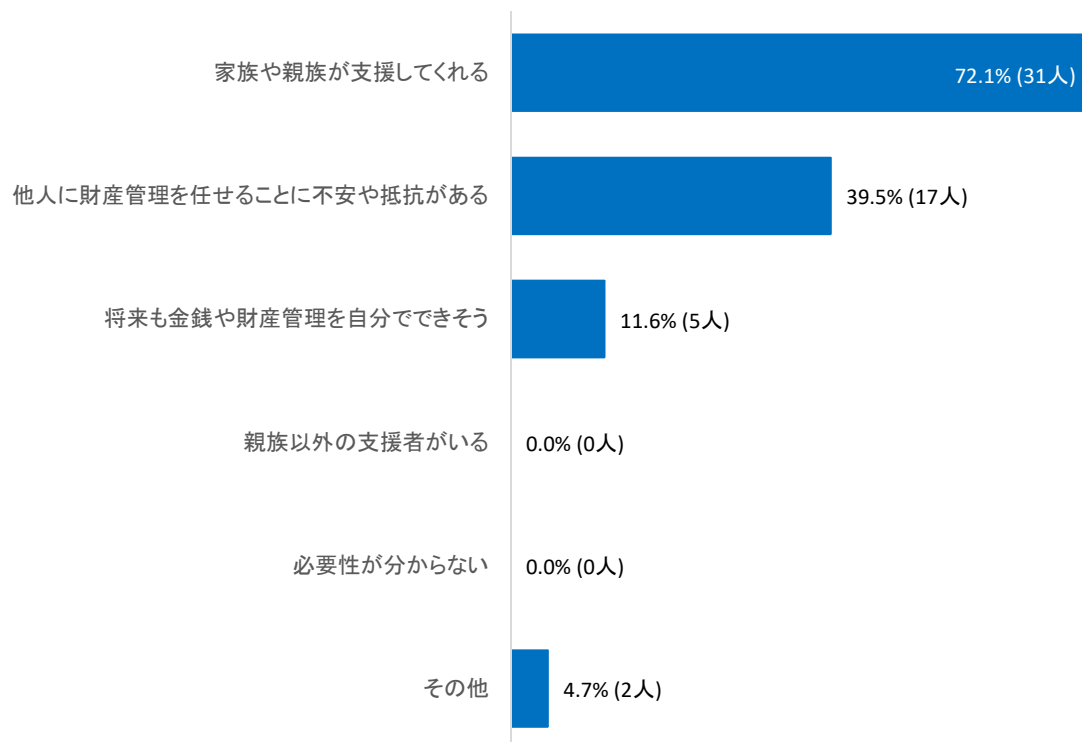
男女別



成年後見制度の利用について、「わからない」51.6%が最も高く、次いで、「利用したい」34.7%、「利用したくない」13.7%となっている。
男女別では、「利用したい」の割合は、男性が10.0ポイント高くなっている。

問 10 問9で「利用したくない」を選択した方に伺います。その理由は何ですか？
(2つまで選択可)

(回答者：43人)

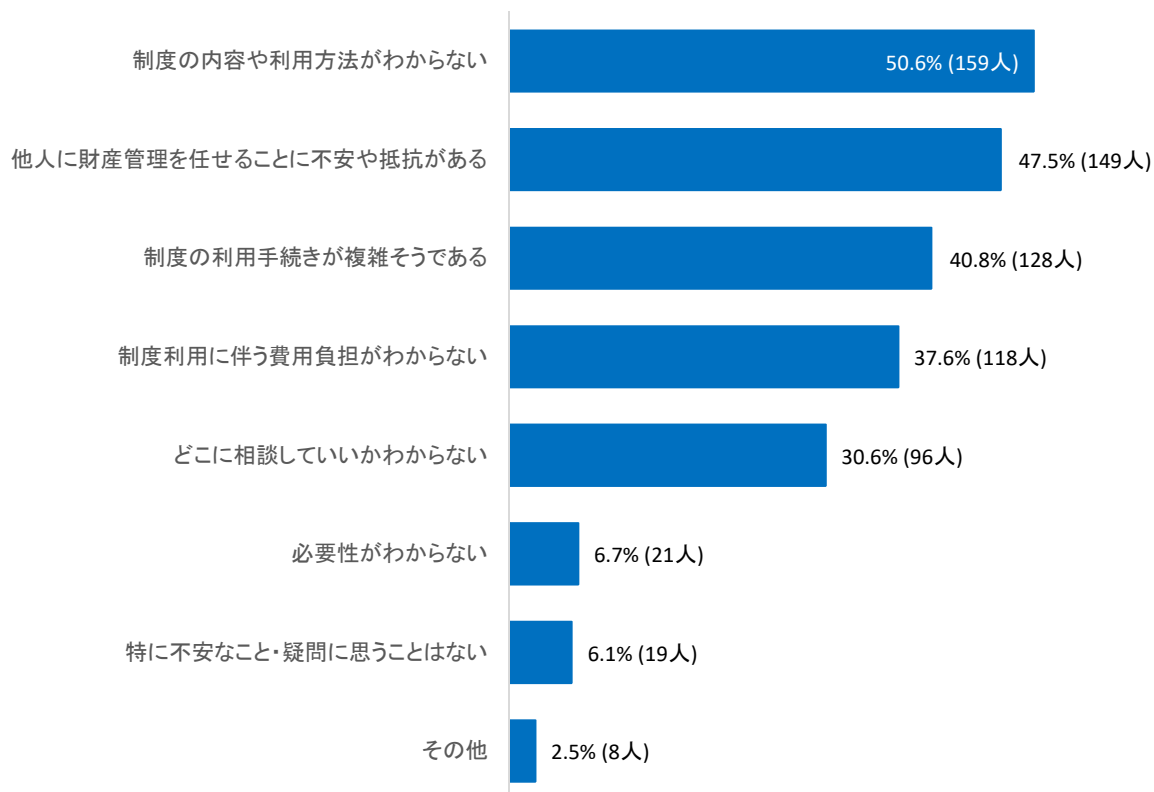


※「その他」を選択された方の主な意見

- ・ 成年後見制度が信用できない。
- ・ 成年後見制度が実態に即していない。

成年後見制度を利用したくない理由は、「家族や親族が支援してくれる」72.1%が最も高く、次いで「他人に財産管理を任せることに不安や抵抗がある」39.5%となっている。
家族や親族が支援してくれるため、成年後見制度を利用しないと考える方が多くみられた。

問11 成年後見制度を利用するにあたり、不安なこと・疑問に思うことはありますか？
(3つまで選択可) (回答者：314人)



※「その他」を選択された方の主な意見

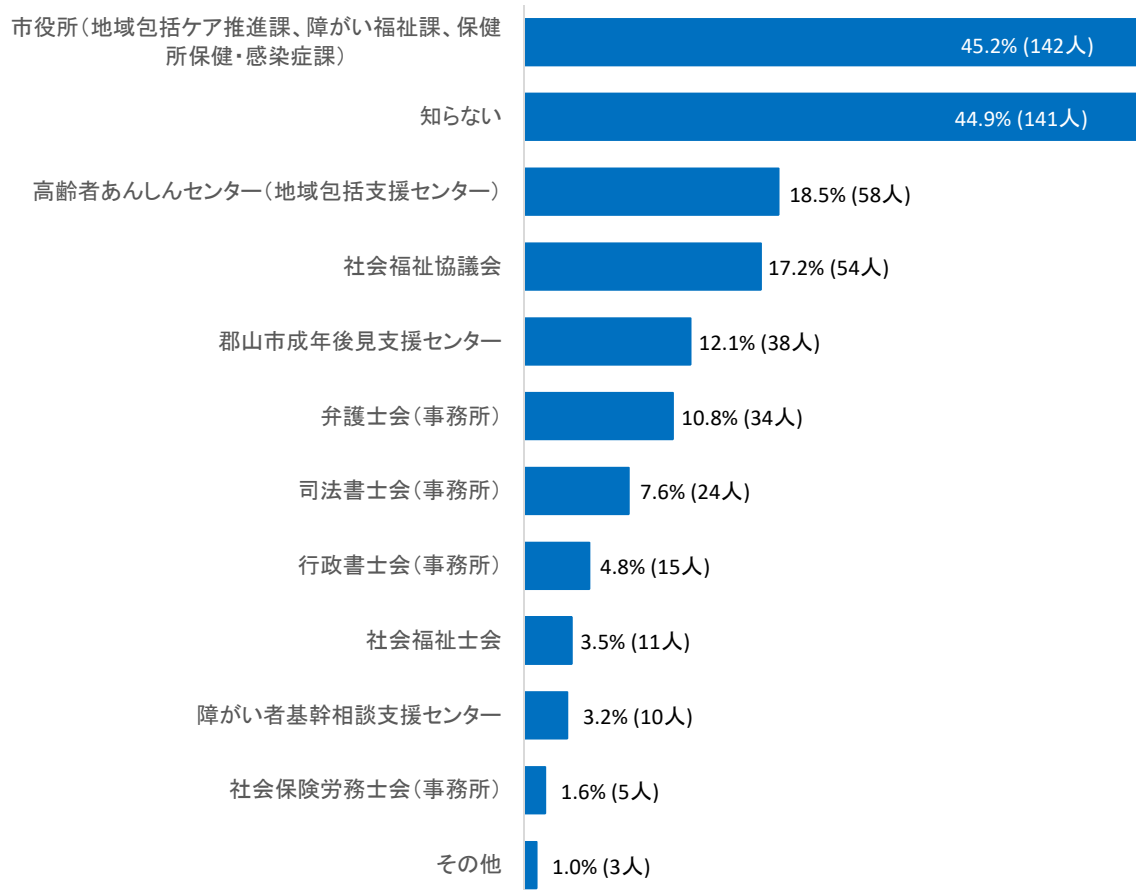
- ・ 後見人の不正がなくならず制度に疑問を感じる。
- ・ 費用・手間がかかる。
- ・ 親兄弟以外の場合、信頼関係がもてるかどうかが不安。

成年後見制度の利用にあたり、不安なことや疑問に思うこととしては、「制度の内容や利用方法が分からない」50.6%が最も高い。次に「他人に財産管理を任せることに不安や抵抗がある」47.5%、「制度の利用手続きが複雑そうである」40.8%となっている。

第3章 みんなの取組みについて

問12 成年後見制度の相談窓口として、知っている窓口はありますか？
(複数選択)

(回答者：314人)



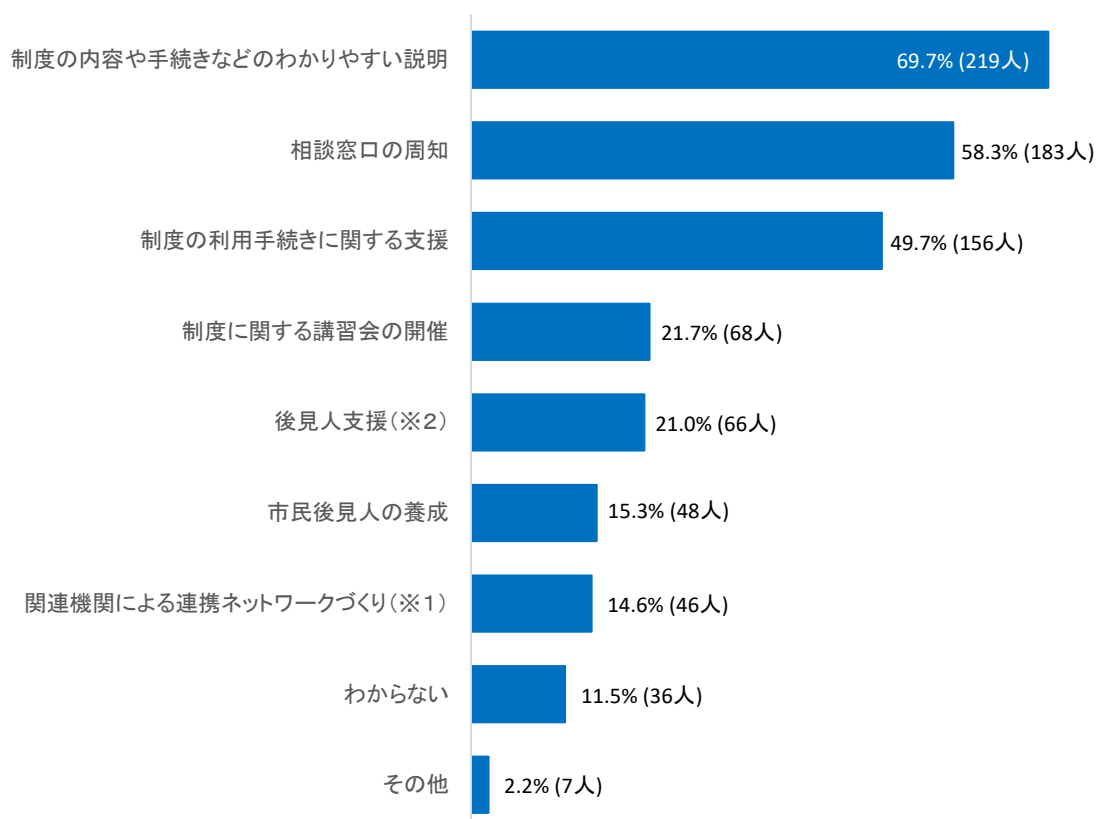
※「その他」を選択された方の主な意見

- ・ 認知症関連団体や障がい者関連団体等の当事者団体。

相談窓口として知っている窓口は、「市役所(地域包括ケア推進課、障がい福祉課、保健所保健・感染症課)」45.2%が最も高く、「知らない」44.9%が2番目に高い。次いで、「高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)」18.5%、「社会福祉協議会」17.2%、「郡山市成年後見支援センター」12.1%の順となっている。

問 13 成年後見制度の総合的な相談窓口である「郡山市成年後見支援センター」に期待することは何ですか？（複数選択）

（回答者：314人）



※1 後見人と医療や介護などの関係者が協力して、本人（被後見人）を支援する体制が強化されること

※2 親族などが後見人業務を行う中で、困りごとや問題が生じた場合の相談・助言などの支援体制の整備

※「その他」を選択された方の主な意見

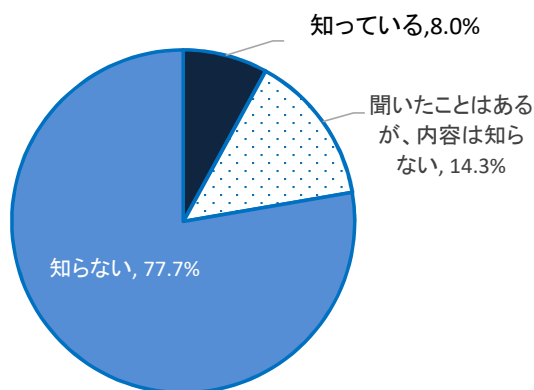
- ・ 当事者団体との情報連携。
- ・ 法人後見、個人を問わず、多様な市民後見人の公的支援の役割を担ってほしい。

郡山市成年後見支援センターに期待することとして、「制度の内容や手続きなどのわかりやすい説明」69.7%が最も高く、次いで「相談窓口の周知」58.3%、「制度の利用手続きに関する支援」49.7%となっている。

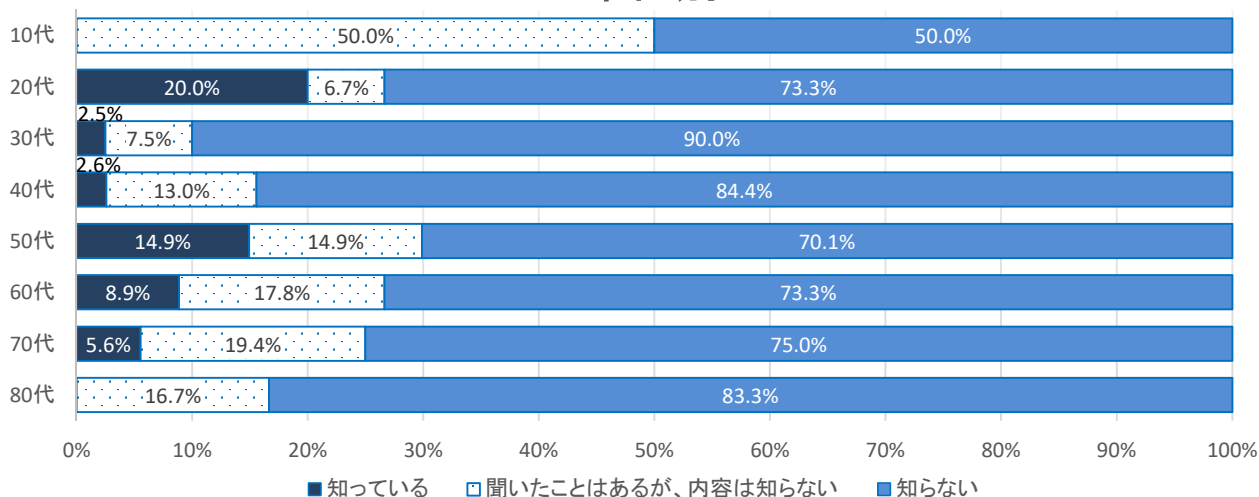
問14 成年後見人のうち、市民後見人（専門職（※）以外の一般の方で家庭裁判所から選任された方）について知っていますか？（1つ選択）

（回答者：314人）

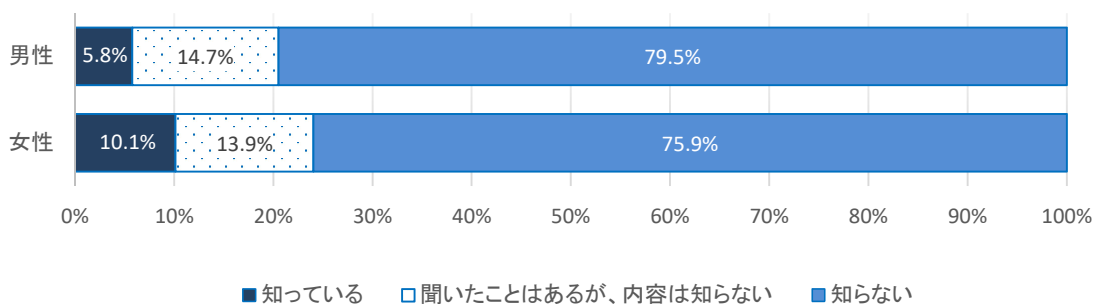
（※）弁護士、司法書士、行政書士、社会福祉士、社会保険労務士など、成年後見制度の専門的な知識を持って、成年後見事務を行う方々。



年代別



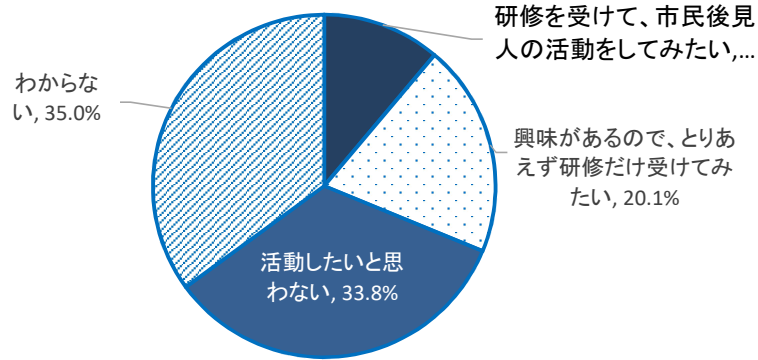
男女別



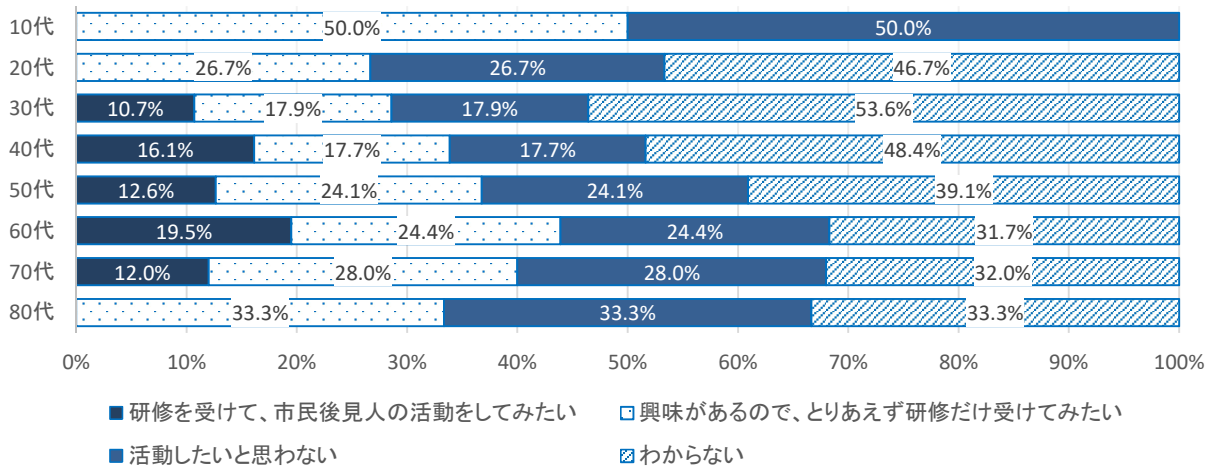
市民後見人について、「知らない」77.7%が最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」14.3%、「知っている」8.0%となっている。
すべての年代で半数以上が、市民後見人を「知らない」と回答している。

問 15 高齢者の増加に伴い、成年後見制度の利用者は年々増加しています。今後、弁護士や司法書士などの専門職の後見人が不足するおそれがあるなか、市民後見人が担い手不足を解消する手段として期待されています。あなたは、その担い手として、市民後見人の活動をしてみたいと思いますか？（1つ選択）

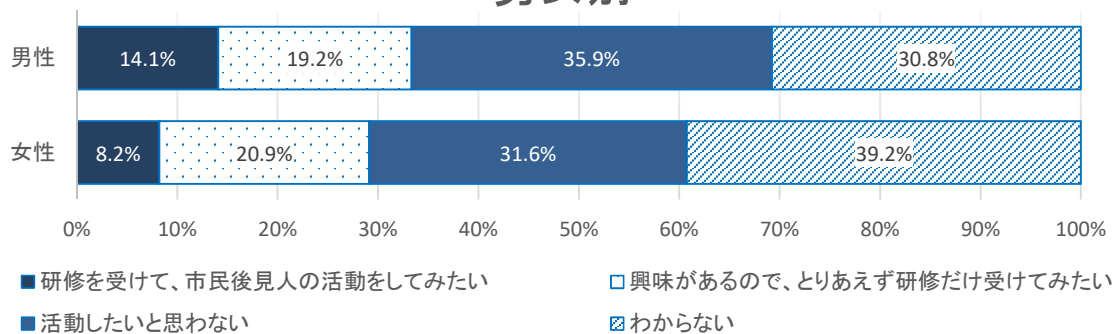
（回答者：314人）



年代別



男女別

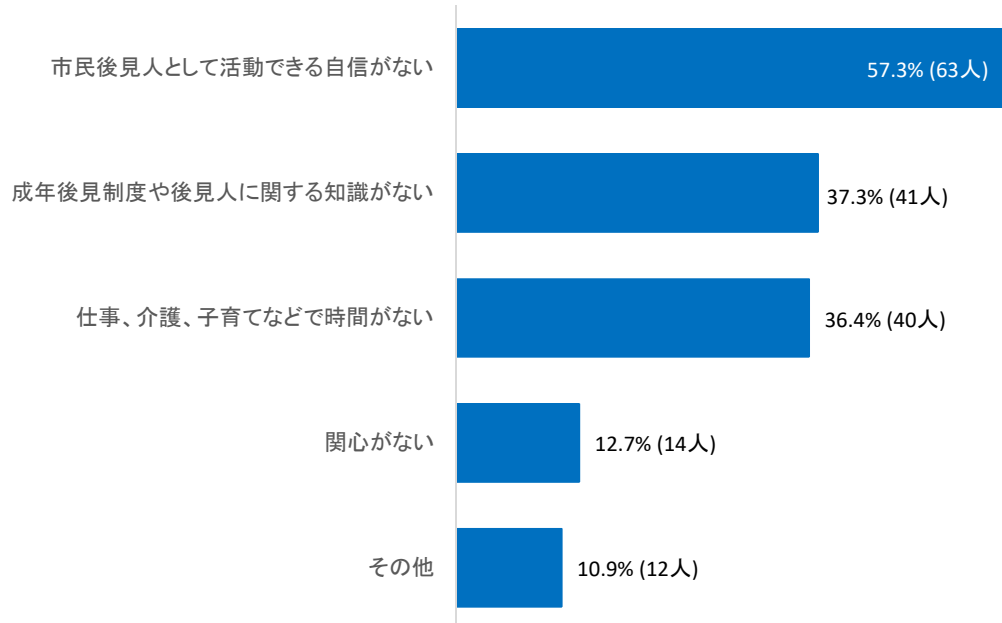


市民後見人の活動について、「わからない」35.0%が最も高く、次いで「活動したいと思わない」33.8%、「興味があるので、とりあえず研修だけ受けてみたい」20.1%、「研修を受けて、市民後見人の活動をしてみたい」11.1%となっている。

男女別では、「研修を受けて、市民後見人の活動をしてみたい」で男性が5.9ポイント高く、「興味があるので、とりあえず研修だけ受けてみたい」で女性が1.7ポイント高くなっている。

問16 問15で「活動したいと思わない」を選択した方に伺います。
その理由は何ですか？（複数選択）

（回答者：110人）

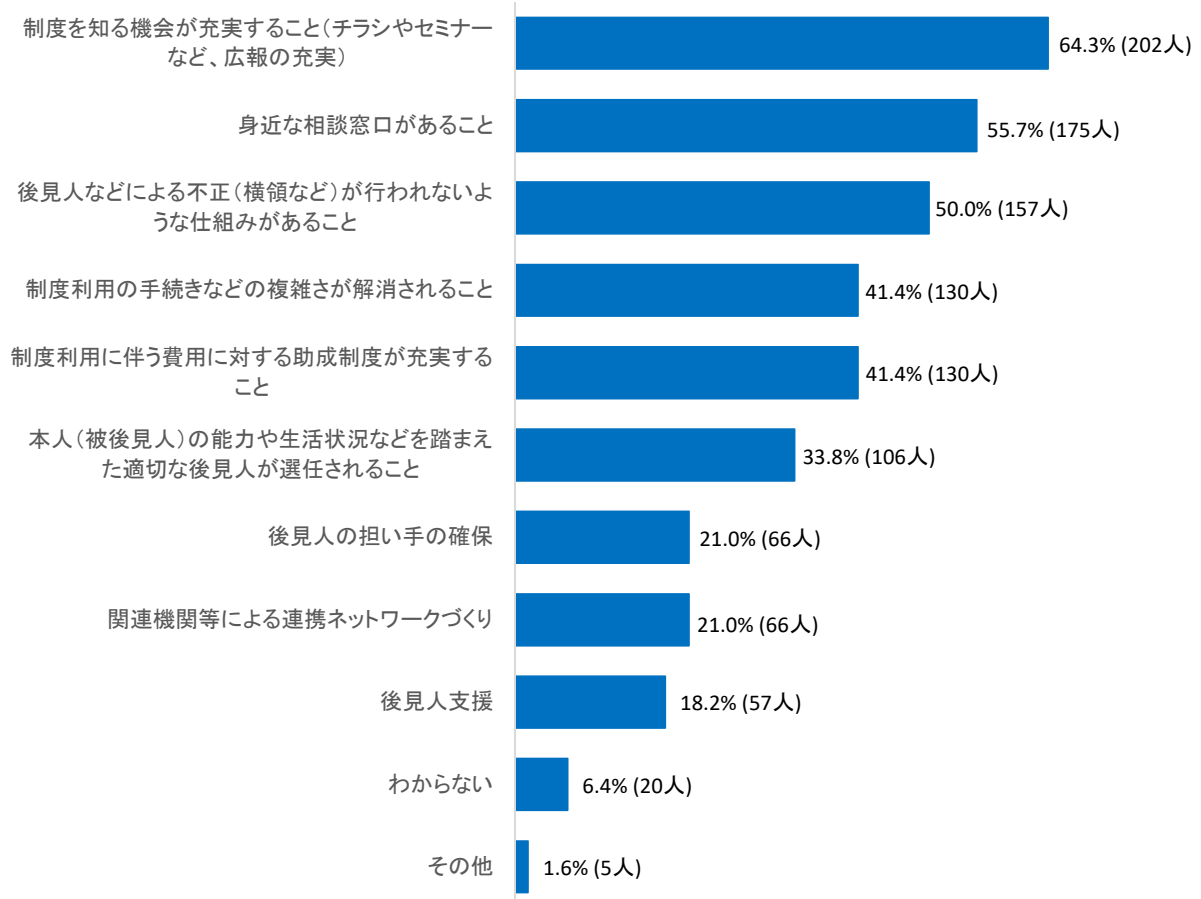


※「その他」を選択した方の主な意見

- ・責任が重い。責任が重そうである。
- ・体力的に不安がある。

市民後見人として活動したいと思わない理由について、「市民後見人として活動できる自信がない」57.3%が最も高く、次いで「成年後見制度や後見人に関する知識がない」37.3%、「仕事、介護、子育てなどで時間がない」36.4%となっている。

問17 成年後見制度の利用促進を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか？
 (複数選択) (回答者：314人)



※「その他」を選択された方の主な意見

- ・子どもころから学校での社会福祉制度の教育や啓発
- ・制度が必要ないよう介護予防に取り組む

成年後見制度の利用促進を図るために必要なこととしては、「制度を知る機会が充実すること」64.3%が最も高く、次いで、「身近な相談窓口があること」55.7%、「後見人などによる不正(横領など)が行われないような仕組みがあること」50.0%となっている。

その他、成年後見制度や郡山市成年後見支援センターについてご意見等があれば、
ご自由にお書きください。

(回答者：47人)

成年後見制度の認識について

- ・成年後見制度を知りませんでした。費用がどの程度かかるかもイメージがわかりません。高齢者が増えていくにあたり、必要な制度と思えるので、調べていきたいと思いました。(40代・男性)
- ・実際はまだまだ周知されていないと思います。もっともっと広まるといいです。(50代・女性)
- ・成年後見制度があることは知っていたが、具体的にどのような手続きやどんな事しているのか詳しくわかっていないところがあるので、費用も含め周知していくことが必要だと思う。(40代・女性)

成年後見制度の利用について

- ・制度利用の費用を明確化し、どのくらいかかるか事前にわかるようにして欲しい。(60代・男性)
- ・親族以外の他人に財産を含め金銭的な部分を任せることには非常に抵抗がある。信用できない。(70代・男性)
- ・後見制度を使った親戚が3件いるが、どれも「ひどい目にあった」と話しているし、実態にあっていない。使いたくない制度。(70代・女性)

成年後見制度の利用促進について

- ・今後必要とされる制度だと思うので、一層PRすると良いと思います。一方で、横領等の事件もニュースで聞くので選任には十分配慮して頂きたいと思います。(40代・男性)
- ・今後高齢化が進むので制度の内容、手続き等の説明会、講習会を開催して欲しい。(70代・男性)
- ・認知症になる不安や一人暮らしの方も増えている印象があるので、郡山市でサポートする仕組みがあると心強いです。周知と手続きの簡素化を望みます。(50代・女性)

市民後見人について

- ・市民後見人の担い手が多くいらっしゃるのが望ましいと思いますが、責任と負担が大きく、一般の人が担うのは荷が重いと想像します。専門職の方、その他行政、市民活動家などチームで対応する方法を探ったらどうかと思います。(50代・女性)
- ・4年前に認定NPO法人ふくしま成年後見センター主催の市民後見人養成講座を受講し、法人後見の任意後見人受任者(担当者)として活動を開始しました。医療福祉の資格はありませんが、精一杯取り組んでおります。このアンケートテーマはとても身近に感じました。(50代・男性)

その他

- ・成年後見そのこと自体を考えていなかったのですが、今後の人生のあり方をあらためて考えることの必要性を感じさせてもらったことに感謝します。(70代・男性)
- ・重要なのはわかりますが 難しいです。(50代・男性)